

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 21年 7月 31日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4372900904		
法人名	有限会社沙蔵		
事業所名	グループホーム花音		
所在地	〒869-4602 熊本県八代郡氷川町宮原588-2		
自己評価作成日	平成21年5月27日	評価結果市町村受理日	平成21年8月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://search.kaigo-kounyuu-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号
訪問調査日	平成21年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・管理者の住まいが2Fにある為、緊急時の即座の対応が取れ安心して過ごして頂けると共に、特に夜勤帯における万が一の事態が発生した場合にでも、夜勤者が安心してケアに当たることができる。・ホーム内には地元の油絵愛好家の方々の作品が20点程展示しており、個展会場として提供しており、職員と利用者が共に鑑賞を楽しみ、目の保養を行う場面を見ることができる。・職員と入居者が自発的に民謡の合唱や踊りを楽しまれ、地域内外での行事や施設慰問を行われるなど、仲間作りや社会参加、チャリティー等の地域貢献にも携わっている。・地域との関わりを大切にする事で社会資源の開拓と活用が充実し「子どもから高齢者が共に支え合い、安心して暮らせる地域社会作りの拠点」を目指した取り組みを行っている。・飾り気のない花音の理念は職員が十分に話し合い納得して出来上がったもの。入居者、家族、職員、管理者の想いが詰まった理念を分かち合い、魅力あるホーム作りを実践している。・皆さんの団欒の場であるリビングには職員作の「赤ちゃんの油絵（我が子）」が飾っており、人々の笑顔を誘うこの30号の油絵がGH花音の顔となっており、アットホームな雰囲気を醸し出している。・他福祉施設等への楽器演奏による慰問活動を通じ、音楽セラピーを行っている。平成20年度、ボランティア協会八代地区より「福祉功労賞」を受け、今後もボランティアや音楽療法の活動を行っていく。・目の前に広がる神社（三神宮）は地域の方々の憩いの場であり、日常的に参拝や散歩をするなど、ホームになくはない環境である。また、近所の方にお茶を出したりなじみの関係ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>地域との関わりを日々積み上げられ、事業所が地域に根ざしたものになってきています。油絵の展示、利用者の他施設慰問活動等、意欲的に社会交流がなされています。経営者である管理者が介護支援専門員の資格を取得されたことも安定した運営に繋がっているようです。介護計画と行動が連動するようにチームでアイデアを出し合いより一層のサービスの質の向上に繋がって行かれることを期待します。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業の目的、価値観や人生観、なりたいホームのイメージ、利用者や家族への基本姿勢、スタッフへの基本姿勢、地域への基本姿勢を明確にし、確固たる理念を創りあげている。スタッフが理念を理解、賛同し創意工夫のあるケア実践に取り組んでいる。管理者側は常にホームの調和やケアの質の向上の為の話し合いを行い、日常的に人間の尊厳や自立支援、認知症高齢者の思いとケアについて職員と共に理解を深めている。また、スタッフも利用者も地域住民との交流を積極的に行うようになっている。</p>	<p>理念は管理者、スタッフで作り上げ玄関に掲示され、日常の業務の中でも理念を基に取り組まれている姿が伺えます。</p>	<p>より一層理念を深めて理念を貫かれる事を期待します。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>管理者が地域の役員を受け、地域の行事の計画や実施に携わっており、住民にホームの日頃の取り組みや認知症ケアの理解を得て戴けるような話をする機会を得ることができている。家族にはホームの取り組みや利用者の社会参加と様子を日頃より話したり広報誌や写真の提供を行っている。もうすっかり顔馴染みとなり近所付き合いができている。ホームの廊下には地元の方の油絵を飾り、個展会場として提供し誰もが集える癒しの場となっている。管理者は地元で生まれ育ち、地域の方々とは顔馴染みであると共に、地区役員、商工会、消防団、PTA役員として地域の連携体制作りを目指している。また、利用者との音楽活動も含め、地元の行事参加や施設慰問を行っている。24時間TV「愛は地球を救う」募金活動やチャリティー活動を実施したり、日常的に子どもが遊びに来て入居者とふれあう等、微笑ましい場面をみることができる。</p>	<p>子ども会、老人会への活動参加が行われ、近くの住民の方の油絵が廊下に掲示されています。PTAの広報委員長を管理者が引き受けることで、地域の小学校の先生や子ども達とのふれ合いも増えてきています。管理者が主体となり「おやじライブ」の音楽活動を10年続けられており、事業所と地域の繋がりを大切にされています。</p>	<p>グループホームの仕事を通じて他者に感動を伝える役割が出てきていることに喜びを感じ、小さな事でも続けることに意義があると感じられています。いきいきサロンの立ち上げ計画など、日々の行動の中で自然発生的に地域との連携ができているようです。無理をせず、グループホームが地域の子どもから高齢者まで集える場所になることを期待します。</p>

3	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>福祉大学よりの研修生受け入れや、毎年雇用能力開発機構とハローワークからの職業訓練校実習生を受け入れ、福祉施設に就職が決定した方もいる。今年「宅老所・グループホーム連絡会」八代ブロックの代表を務めることになり、積極的に高齢者福祉や安心して暮らせる地域作りに努めている。</p>		
4	<p>3 ○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の区長や民生委員、老人会や行政の方々にも、あるがままのホームを見て戴くと共に、日頃のケアや取り組みをそのまま地域の行事に活かした活動ができており、運営推進委員の協力を頂きながら協働で地域作りができていくなってきた。</p>	<p>老人会長、民生委員、区長、町介護保険課、入居者、管理者、職員等で2ヶ月に1回開催されています。その中で自給自足ができるような畑ができるといいなと具体的な意見があり、検討中です。</p>	<p>町全体の活性化になるよう、事業所を拠点とした地域の農園作りができるといいですね。</p>
5	<p>4 ○市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当課や社協、また、八代市の協力や指導を戴きながら制度の理解や国の目指す福祉のあり方を学ぶように努めている。また、利用者様の状態や入居の際の相談も行っている。</p>	<p>市町村や地域包括支援センターへは随時出向き相談や、意見交換が行われています。日頃の連携を通じ、行政からの講演依頼があっているようです。</p>	
6	<p>5 ○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員と入居者は信頼関係の下に日々を共に過ごしており、どんな状況でも身体拘束については一切行っていない。全職員が認識しており、万が一の事態が発生した場合、例えば夜勤者1名で問題を抱え拘束を犯してしまうことがないような体制ができています。定期的に、鍵をかけることでの弊害について話をしている。入居者の方で以前とは違い外に出られても、しばらくすると自らホーム内に入って来られるなど、すっかり馴染まれている。表情の観察を行うと共に個別の行動パターンを把握しており、外での過ごし方を見守りながら自由な暮らしを支えている。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないのが当たり前で、夜間のみ玄関の施錠がされています。</p>	<p>管理者のみでなく、全職員へ身体拘束に対する認知をより一層深められることも大切です。</p>

7	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入居者の尊厳と安全を守ることが職員の使命であり、身体的、心理的、性的、経済的虐待、ネグレクト等の虐待は一切行っていない。また、管理者の住居が2Fにあり、夜間時においても万が一の事態にも対応できる体制ができている為、夜勤職員は安心して介護に当たることができ、虐待の防止策として配慮されている。職員は出勤時、ひとりひとりに挨拶を行うと同時に、入居者の所在の確認をさりげなく行っている。また、次のケアや動作に移る前に、利用者の表情を観察すると共に、9名の所在を把握した上で次の必要なケアを行うようにしている。居室で過ごす時間の多い方は時間毎に訪室し声かけを行いながら様子を把握している。喫煙者が健康を維持し、安全にタバコを楽しむことができると共に、ホームの安全を確保する為、ライターはホームで管理し、定期に本人に声かけし安全確認を行っている。現在のところ、火気の取り扱いが一番気をつけなければならないところである、。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>家族への説明は入所時にこのような制度があることをお知らせしているが、現在のところ、必要としている入居者や家族はない。制度の内容については職員に説明し理解を得ている。また、近日に勉強会の予定がある。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>口頭と文書による説明と同意を得ている。また、平成21年度介護報酬改正についてもホームが取得する加算に対する詳しい説明も口頭と文書により明確にし疑問が生じないように配慮し、納得頂いている。</p>		

10	<p>6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から利用者の思いを傾聴し受容的態度で接するようにしている。利用者には遠慮せず気軽に話を打ち明けて頂けるようにこちらから言葉かけをするように配慮している。面会や外出は自由に行って頂き、日頃のホームでの様子を家族に話されていることを家族からよく耳にするものの、苦情といった内容のものはない。全て面会時や毎月のお知らせを郵送し報告を行っている。日頃の様子や受診以外の文面も個別に作成している。職員の入れ替り等の諸状況は包み隠さず伝えている。また、急ぎの報告は電話での対応を行うとともに、家族へ伝える内容や送付する内容に漏れないようにチェックリストを作成し活用している。家族の要望により職員紹介を写真入りで作成し各家族に提供している。定期的に意見箱設置や苦情・相談窓口の案内、意見や要望を促した「お知らせ」を送付したり、面会時にも、何でも気軽に話せるような信頼関係作りに配慮している。また、認知症ケアにとって家族の絆がいかに大切かということをを常日頃から説いており、家族の思いを尊重しながらも、必要性の高い大切なことは伝えていくようにしている。</p>	<p>年1回開催される家族会や、家族面会時に随時意見を引き出すようにされています。家族と利用者の関わりが少ない場合等はいかにしてうまく繋がりをもてるか、工夫しながら対応されているようです。意見箱は設置されていますが、入ることはないようです。</p>	<p>直接的に意見や苦情を出されることは少ないようですが、日常の何気ない会話、対応を察知され運営に活かされることを期待します。</p>
11	<p>7 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>経営者側2名は、日頃からホームで過ごす時間が多く、日常的に職員と十分な話し合いを行い、朝昼夕毎に、また、月1回の会議においても意見や提案のしやすいアンケート等も使用するなど、工夫をしながら良好な関係作りを図り、十分な検討と問題解決を図っている。必要に応じ個人面談も行っている。</p>	<p>月1回の職員定例会議や随時個別や複数でカンファレンスが行われています。又、管理者の妻が副施設長的な立場で対応され、職員意見を引き出しやすい環境を持たれています。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>入居者、家族の状況により、できる限りの調整ができるように対応しており、必要時は運営者側2名が状況に応じ柔軟な対応をとっている。また、職員の勤務状況や健康管理面には、可能な限り経営者が調整を図った対応が行われている。現在、職員体制が安定しており、協調性と気持ちの共有が図れている。家庭的なホーム運営ができており、入居者の心情に動揺を与えることなく、ごく自然に癒しの場創りができている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ひとつひとつのケアについて適切な助言ができるように指導すると共に職員のレベルに応じた研修の機会の提供を行っている。教育計画を作成し働きながら実践できるような指導を行っている。各職員の事情を踏まえ、できる限り働きやすい環境作りや必要時は経営者側がシフトに入り調整の努力をしている。また、職員同士が協調性をもって良好な関係を保持できるように配慮し、ストレス軽減に努めている。夜間、必要な時はいつでも経営者側の応援ができるように2階へのインターホンの連絡体制がとれるように安心できる職場となっている。業務先行ではなく、あくまでも利用者主体の創意工夫のある取り組みを行う職員、グループホームに適した穏やかな対応ができる人、学習の後が見られケアに反映している者、健康状態や勤務状況等、日頃の様子や時にアンケートや面接による把握を行い気持ちを新たにケアに従事して頂いている。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域内外のGHや施設等へは事あるごとに訪問或いは連絡を取り合い、情報の共有及び相談援助を受けている。また、他事業所の介護支援専門員とは頻繁に情報の交換を行い、より良い支援の為の交流を図っている。宅老所・グループホーム連絡会の代表を受け定期的勉強会を実施している。同業者間の訪問と交流会も行えている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人と家族には、直接ホームを見学して頂き面談を行い、安心して入所されるよう話や質問を傾聴するようにしている。また、入居前に自宅や利用中の施設等に顔を出し馴染みや信頼される関係を築けるように配慮している。本人と家族の意向を優先し対応を行っている。十分な医師の指導のもと、家族に頻繁に面会いただき、本人が安心されリロケーションダメージが最小となるよう配慮している。現在のところ入退居はない。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>困っておられる状況について当ホームではどんな対応ができるのか、理念に基づいて説明を行い安心頂けるように配慮している。また、本人がホームでの暮らしに馴染まれるまでは、家族との連絡を蜜に取りながら互いに支え合うことの重要性和信頼関係構築を目指しており、まずはホームの理念や方針を十分理解して頂くよう説明している。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談の際、GHの役割や支援内容を十分に説明し、必要に応じ他の事業所や担当の介護支援専門員等と連絡、調整を図り、できる限りの相談にのっている。面談の際に、まず不安なく移り住めるという安心感をもって頂けるように笑顔のある明るい雰囲気創りに配慮している。また、入居までに自宅や利用中の施設等を幾度か訪問しふれあうことで顔なじみとなり、信頼関係を築けるように努めている。本人がホームでの生活に馴染まれるまでに、しばらくの時間を要することを理解して頂くと共に、家族との連絡を密にとりながら協力を頂いている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者と職員が協働する中で信頼が生まれ、人間の尊厳を大切にすることの重要性を経営者とスタッフ全員で日常的に学び合っている。また生活の知恵や文化を教わることもあり、逆に職員の心が癒されることが多い。入居者の方々も無意識に日々の暮らしの中でコミュニケーション能力が高まり、気配りのある言葉かけをされるなど、支え合う関係が共有できている。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と共に支援していくことの重要性や意義、思いを伝えると共に、外泊や外出、病院受診付き添い等の機会を持って頂くと共に、家族とのふれあいを大切にして頂けるように支援している。また面会時には、日頃の入居者の様子を伝えると共に細かい心身の変化による対応法についても家族と相談しながら協働のケアを目指している。家族が協力し調整を図りながら、できる限り受診や面会、外出等の支援を行われたり、昼食時に合わせ面会され、食事を楽しんで頂くなど、家族が積極的に利用者のケアに携わる光景が見られる。</p>		

20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>整髪時は、馴染みの美容室に協力を依頼し、親しい友人と集い交友できるように援助して頂いたり、田んぼや畑を見て落ち着いて頂いたり、自宅までドライブする等、気分転換を図っている。また、家族との外出や行事参加への働きかけを行っている。</p>	<p>大家族的な雰囲気がグループホーム内でできています。新たな馴染みの関係作りをされ、利用者にとっての生活の馴染みを大切にされています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>できる限り全員が揃って「戴きます」の挨拶で食事ができることの喜びを感じて頂く中で、自然に分ち合いや支え合う気持ちが育まれており、喜怒哀楽を共にしながらのコミュニケーション能力の向上を目指している。また、職員と利用者が協力して利用者用の「今月の目標」を作り、毎朝唱和するなどの工夫を行っている。</p>	/	/
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>現在は該当者はないが、ホームの入居者が利用していた事業所の関係者とは定期的に情報の交換や相談を行っている。家族とは自宅を訪問したりホームに来院頂いたりして現在も交流が継続している。</p>	/	/
<p>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ひとりひとりの心の声を汲み取ることができるよう努めており、日常的に利用者の思いを傾聴し、職員同士で生活歴や日々のケアの中で経験した思いや気づきをもって十分に話し合いながら、本人の想いにしっかりと向き合う姿勢を大切にしている。</p>	<p>管理者は日頃から利用者の動作、会話を観察し、毎日の生活の場面で意見をくみ取るように対応するように心掛けられています。</p>	<p>経営者である管理者夫婦は、毎日の生活の中で意向を把握するように対応されているようですが、一人ひとりのスタッフが同じ思いで利用者や接することを望んでおられます。限られた空間、グループホームの中でその人の意向をどうくみ取るか、どう探すかの工夫や対策を見つけられる事を期待します。</p>

24	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>押し付けることなく本人が納得し自分の意思で決定される支援を目指しており、常日頃からひとりひとりの利用者と十分な会話をする中でケアのヒントを探ると共に、信頼関係を築くよう心がけている。また、面会時には家族からの生活歴の聞き取りや情報の収集を行っている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>独自の経過記録やケア観察記録様式を作成し、心身の健康状態や活動、支援状況等がトータルに把握できるように工夫している。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画立案の際は、本人や家族、入居前に利用中のサービス関係者や主治医等の意見を反映している。また、日常的に計画作成担当者と職員が話し合い、課題を明らかにして、より適切なケアのあり方を検討している。本人や家族とは頻繁に話し合い、実情に即した支援方法を検討できている。また、状態変化が生じた場合は、その都度、主治医に相談及び指示を仰ぎ、見直しを行ったうえで新たな計画を立案している。</p>	<p>介護支援専門員である管理者が利用者・家族等の意見やスタッフの意見を聞き取りアセスメントからモニタリングまで介護計画の一連の流れを担当されていますが、介護計画と日々の業務の連動が薄いようです。</p>	<p>計画と行動の連動ができるよう、また、スタッフ一人ひとりが自分たちで考え、計画行動できるようなシステムをチームで取り組まれることを期待します。</p>
27	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>独自の経過記録やケア観察記録様式を作成し、個別の心身の健康状態や活動、支援状況等が把握できるように工夫している。</p>		

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>あくまでも利用者主体に、緊急時には速やかな対応ができるように体制を整えている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地元住民や音楽愛好家、小学校、商工会、婦人会、消防団、民生委員などの日頃からの交流を図り、ボランティアの方々とも顔なじみになられ、ホームでの日頃の活動が地域に向けて自然に浸透しており、地元住民の一員として社会参加ができています。他グループホームや福祉施設、ケアマネージャーとの交流も広がっており、利用者の必要性に応じて、こまめに相談や情報の交換を行っている。サービスの利用や変更の際は、本人や家族、医師との十分な話し合いを行いながら対応している。また、地域福祉における総合的支援を行っていく観点から、地域包括支援センターによる指導も頂いている。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的受診は家族の付添いと協力が得られるようになり、利用者との良好な関係が保たれている。また、主治医や薬局などの医療連携機関へは、必要に応じていつでも相談ができ、適切な指示を頂いている。状態による個別の速やかな対応が図れるように努めている。八代市 平成病院（精神科）が協力医療機関で、受診の際は認知症の進行状態を詳しく伝え指導を仰いでいる。</p>	<p>主治医からの情報提供票にもグループホーム花音との連携がうまくいき対応が速やかにできるという事が記載されたり等、かかりつけ医や認知症専門医との連携をもつよう心掛けられています。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療福祉機関や訪問看護ステーション、他介護施設等の看護師に医療に関する相談を行っている。また、日頃から交流の機会を大切にしている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合は、定期に管理者及び職員が面会を行い、医療機関や家族との話し合い、経過を見ながら、早期退院の受け入れ体制をとっている。また、ホームでの暮らしぶりなどの情報を提供し、入院期間もできる限り快適に過ごして頂けるように配慮している。</p>		
33	<p>12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に本人及び家族に重度化した場合や終末期の体制について説明し要望を聞いている。また、終末期には主治医、家族と十分な話し合いの上、本人、家族、親戚の方の要望を聞き、今後のホームにおける支援について、方向性を確認し同意を得るようにしている。まず本人の気持ちを優先し、その都度意思確認を行いながら家族や主治医に本人の気持ちを伝えると共に家族の要望、医師の専門的立場での助言、指導を頂きながら対応している。</p>	<p>重度化対応・終末期ケア対応指針を作成され、それに基づき説明や対応を行うようにされています。</p>	

34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホームは観察しやすい設計で、見守り観察を重視している。また、立ち上がりの際の転倒防止の為、数名の方はセンサーを使用し対応している。行方不明については、特に行事や外への移動の際の手順を職員全体に周知している。与薬は担当者を決め、飲み忘れ等がないように最期まで確認をするようにしている。消防署による救急法の講習を受けている。また管理者の住居が2Fにあり即座の対応が行えるようにしている。常に新たな課題を明らかにして、家族と共に、必要時は主治医の指導を仰ぎながら改善策の検討を行っている。小さい変化も見逃さないように観察し、職員、家族、主治医等の連携を図り、必要時は速やかな病院受診が行われている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地元の消防団や区長等とは常日頃より交流を図り、管理者も区役員としてホームや地域における防災体制作りに参加している。万が一の場合の対処について十分な話し合いができており、緊急時連絡対応者として、もとよりの担当消防団員も3名配置され体制が充実している。</p>	<p>年3回の避難訓練が行われ、災害時の一時避難場所も目の前の神社境内とスタッフ全員が周知されています。地元消防団との会合に参加され常日頃から連携がとれるようにされています。</p>	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉かけや接し方については会議やミーティング時のほか、面談を実施し、人間の尊厳やプライバシーに配慮した対応について双方が納得し理解が得られるよう十分な話し合いを設けている。また、職員用のケアをする上での大切にしたい「今月の目標」を作成し掲示している。</p>	<p>日頃の業務の中で職員同士でお互いに注意しながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするようにされています。</p>	

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者と同じ高さの目線で話を傾聴し、分かりやすい言葉を使用するように努めている。意思表示の困難な方へは問いかけ等の言葉を選びながら、決して押し付けとならないよう、できる限り本人の理解を促し、意思決定して頂けるように接する。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>人間の尊厳を重要視した言葉使いやグループホームにおける介護職員としての「自立支援」と「認知症の緩和」の理解を徹底しており、業務先行ではない利用者主体のケアを行うように周知している。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご家族の支援も含め、本人の好みやおしゃれに対する気配りを行っている。また、職員や入居者が互いに洋服の色やデザイン、髪型を褒めあう場面を日常的に見る事ができる。理美容については本人の馴染みの店を利用して頂く際に、予め親しい友人に連絡をとり馴染みの関係を大切にできるような配慮を行っている。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>下ごしらえ、配膳・下繕、調理や盛り付けに至るまで入居者と協働できている。また、できる限り全員が揃って「戴きます」の挨拶で食事ができることの喜びを感じて頂く中で、自然に協調性や思いやりの心が芽生えている。職員と入居者は共に同じ食事を戴き、食事は身体や口腔機能に配慮した工夫を行っている。コーヒーを何度も飲まれる方には、薄くする、牛乳を入れる、甘くする、声かけの工夫を行う等して出している。また、時折「饅頭」と言われると一緒に買い物に出かけている。喫煙は本人、家族と安全、健康面等について話し合いながら、必要な取り決めを行い、適度に責任と自覚をもって自己管理を促して、去年は50本/1日であったが現在は5本以内/1日と節煙に成功している。</p>	<p>楽しく食べるような雰囲気づくりをするように声かけ等で配慮されているようです。食事形態や減塩など、好みの物を大切にしながらも健康重視で対応されています。食事の下ごしらえや準備など、利用者一人ひとりの能力に応じながら対応されています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分摂取量のチェックを行い、水分は少なくとも全員1リットル以上の摂取が確保されており、還元粹による健康の支援を行っている。また調理師資格を持った職員もおり、個別にきざみやミキサーにするなど調理法にも工夫を施している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食前後に口腔ケアの支援を行うと共に、できる能力を発揮して頂き、見守りや介助を行っている。義歯は毎夕洗浄し酸性水に浸し清潔保持に努めている。また、口腔内のトラブルについては連携歯科医院へいつでも相談できる体制が図れており、速やかな受診が行えている。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>便失禁を防ぎ気持ちよく排泄できる習慣作りの為に、毎日決まった時間にトイレ誘導を行い、食物繊維の多い飲み物を毎日飲んで頂くことで改善されている。また、排尿の際衣類の汚染がある方へはタイミングよく声かけを行い、失敗を防ぐ対応をおこなっている。夜間の放尿がある方は、排泄のパターンや様子を観て誘導している。</p>	<p>全利用者にトイレ誘導が時間毎に行われ、排尿状態は変わらなかったようですが、便失禁が頻回だった方は排便の習慣化ができトイレでの排泄ができるようになっていきます。</p>	<p>排便に関してはうまく自立したケースもあるようです。もう一歩すすみ、排尿についても排泄パターンの観察を行い、トイレ誘導、排尿の習慣化でトイレでの排泄が可能となる事も考えられます。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>料理や飲料には便秘にも効果のある活性水素生成器（医療用具）を使用し、日々の健康作りに配慮している。また食物繊維の多い飲料の摂取を試み、スムーズな排泄ができていくケースもあり、効果が実証されている。水分摂取量や活動量を多くするなど。状況を観て主治医の指示も仰いでいる。</p>	/	/
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個別の希望を考慮し、本人が納得された上で入浴を実施している。できる限り週に3～4回入浴して頂いており、酸性水を浴槽に混入し皮膚の健康管理に努めている。また、入浴嫌いだった方も現在は自ら入浴を希望されるなど、スタッフが、入浴を楽しめるような雰囲気作りを実践している。</p>	<p>湯船に入ることを原則とし、健康状態を観察しながらお風呂好きの方は毎日入浴、入浴嫌いの利用者も週に最低3回は入浴できるよう対応されています。季節毎の行事湯等も楽しめるように支援されています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>独自の記録様式を使用することで一日の過ごし方や心身の健康状態が把握しやすくなっており、個別の睡眠や排泄状況等を観ながら活動と休息の調整を図り、仮眠の促しなどを行っている。また、日中の活動を促し昼夜逆転を防止すると共に生活リズムを整えるよう努めている。</p>	/	/
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別の薬の内容や副作用、留意事項については、ミーティング時及び申し送り表に記載し、確実に情報の共有が図れるように工夫している。また、薬に関する疑問が生じた時は、いつでも相談できるよう病院や薬局との連携がとれている。</p>	/	/

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>以前されていた仕事から皿洗いや洗濯物干しを楽しむひと、農作業や片付け、掃除を自主的に手伝われる人、リハビリと思い頑張って歩行訓練や体操をされる人、自由気ままに自分の部屋で過ごされる人、楽しみの読書や職員と共に踊りを楽しむ人、たくさんおしゃべりを楽しむ人等、ホームの利用者には笑顔がある。家族の絆を大切にした支援が認知症の緩和ケアにとって一番大切であることを家族が理解され、外出や面会の支援が多くなっている。その際に、買い物や美容院、外食、ドライブ、親しい方との再会など、充実した家族による支援がおこなわれている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日には、できる限り一度は外に出て過ごして頂くようにしており、神社への参拝は日課となっている。また、ドライブや買い物、近くの畑に作物の収穫に出かけたりの支援を行っている。気分をリフレッシュして頂く為に出かけることも多い。</p>	<p>近所の神社やスーパー、近くの利用者の自宅等、週3回～毎日の外出支援がその日の状況により行われています。</p>	<p>外出支援が計画的に盛り込まれる事も大切です。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物を行われる際は、職員が同行し支払いに立会い金銭の確認を行っている。神社への参拝や祭り時にお金を持って賽銭をあげられたりされることもある。適度の金銭管理を行い、計画的に使用されるようしている。金銭所持によるトラブルを未然に防ぐことも考慮し対応している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からホームに電話があると本人に代わり会話を楽しんで頂いている。また、こちらから電話をする場合は、家族の事情等を考慮し迷惑としない配慮を行いながら対応している。手紙については、県外の家族や知人との定期のやり取りをされている方がおられ、できない部分を職員が手伝い支援している。</p>		

52	<p>19 ○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族や親戚の面会が多く、他の入居者、家族とも馴染みの関係ができており、ホームは地域の人々がいつでも気軽に立ち寄れるように、地元の方の油絵の個展会場として提供していると共に、職員と利用者がゆっくりと絵画鑑賞を楽しまれる光景を見ることができ、誰もが集える雰囲気作りを心がけている。ホームの玄関付近には塀がなく見守りが必要となるが、よりオープンに気軽に立ち寄って頂けるようにしており、時折玄関先で近所の方にお茶を出し、世間話ができる場となっている。また玄関前やフェンスには花を植えたり椅子を置き、親しみやすさを演出している。、玄関には職員が描いた油絵や理念を掲示し、また、椅子を置き、安全に靴が履けるようにしている。ホーム内には油絵や標語、懐かしい昭和の風景写真や日めくりの暦、黒電話やレコード盤等が飾られている。また団欒の場であるリビングには職員作の「赤ちゃんの絵」を飾り、微笑ましい雰囲気を醸し出しており暖かく和やかな空間作りができています。サッシは2重ガラスを採用し音に対する配慮ができています。ホーム前の神社の存在が入居者にやすらぎと安心感を与えている。24時間換気システム、換気扇、扇風機、加湿器、エアコン、よしず、窓やドア、シャッターの開閉等を個別に応じた細かな調整を行っている。室温や湿度は職員の感覚ではなく入居者の健康を考慮し調整している。玄関先は神社の眺めが良く憩いの場となっており、椅子を数脚置き草木や風景を眺めながら地域の方とお茶を飲むこともある。水撒きや園芸、草むしりなどは入居者自らの意思で行われている。天気の良い日の神社への参拝は入居者の日課となっている。</p>	<p>食事をする時の席配置やくつろぐ場所をリビングソファや廊下の椅子に一人ひとり配慮しながら対応されています。廊下に絵画を飾るなど全体的に片付けられ空間が広くなって来ているのが感じ取れます。</p>	<p>リビングから見える外壁が茶色の殺風景な壁となっており、一工夫欲しいところです。</p>
----	--	--	---	--

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>北と東側廊下に2～3人掛けソファを配置し、油絵を鑑賞したり、外の景色を楽しみながら利用者同士、または、そこに職員もふれあう場面が見られる。玄関先には喫煙所を設け寛げるスペースとなっている。家族や親戚の面会が多く、他の入居者、家族とも馴染みの関係ができており、ホームは地域の人々がいつでも気軽に立ち寄れるように、地元の方の油絵の個展会場として提供していると共に、職員と利用者がゆっくりと絵画鑑賞を楽しめる光景を見ることができ、誰もが集える雰囲気作りを心がけている。</p>		
54	<p>20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの鏡台や孫の書道作品、仏壇や家族の写真などを持ち込まれ、折に触れ馴染みの物に囲まれて暮らす意義について話し、家族の協力を頂いている。個別の一日の過ごし方に合わせた演出をおこなっている。家族や親戚の面会が多く、他の入居者、家族とも馴染みの関係ができており、ホームは地域の人々がいつでも気軽に立ち寄れるように、地元の方の油絵の個展会場として提供していると共に、職員と利用者がゆっくりと絵画鑑賞を楽しめる光景を見ることができ、誰もが集える雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>空調調整は各部屋で細かく調整されています。グループホーム全体がひとつの家として、居室が自分の部屋という感じが全体の中から感じ取れます。</p>	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室、廊下、玄関先に手摺りを設置。玄関の段差は低めの設計。下駄箱横には椅子を置き安全に靴を履いて頂き転倒防止に配慮している。個別に声をかけ目的地へ誘導したり、分かりやすく「お風呂は①番、トイレは②番、居室は③番」などと促している。また食堂のテーブルの位置に気をつけ動線の整備に努めている。便座は使いやすく違和感のない両サイドバー式を採用し、個別に目的地へ誘導。全ての来所者に優しいホーム作りを目指している。声かけの内容やタイミングと手の出し過ぎに注意し、入居者の動きや心理をよく観察している。トイレの場所が分かるように聞こえる側の耳より傍で声かけを行うなど適切な対応ができるようになっている。</p>		
----	--	---	--	--

V アウトカム項目

56	<p>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)</p>	○	<p>1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない</p>
57	<p>利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)</p>	○	<p>1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない</p>
58	<p>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)</p>	○	<p>1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
59	<p>利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)</p>	○	<p>1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない